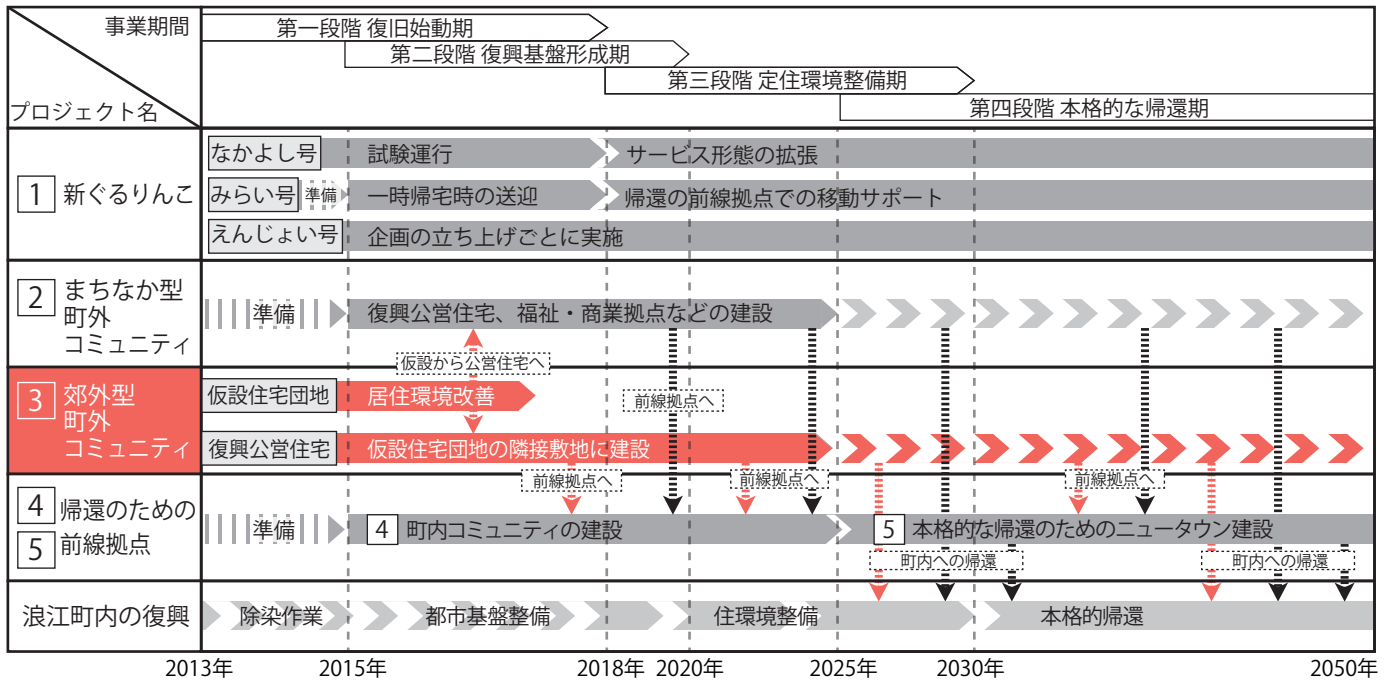


# 3.

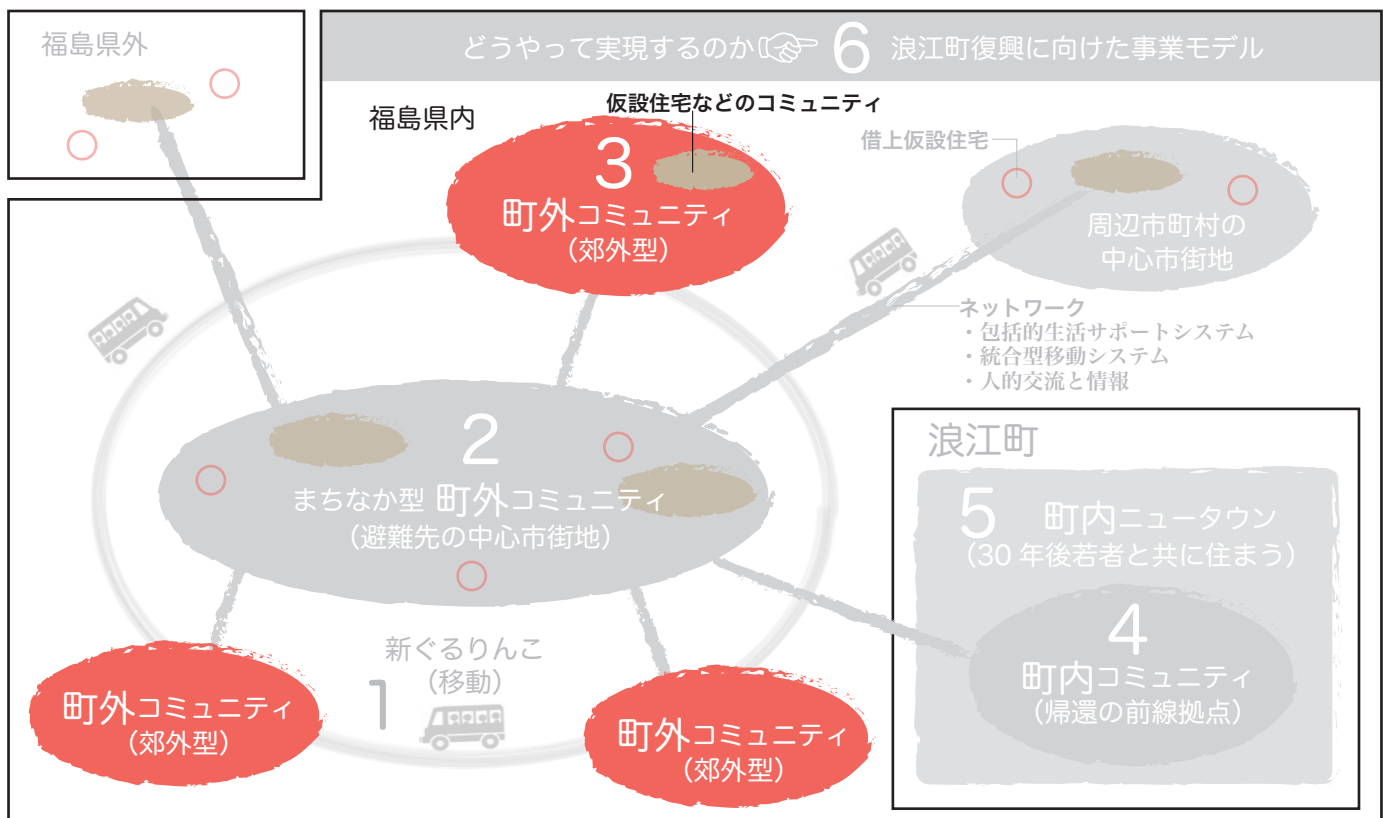
## 仮設住宅団地と周辺に形成される「郊外型町外コミュニティ」

二本松市内の仮設住宅団地で生活している浪江町民の半数以上が60歳以上で、高齢者も多い。仮設住宅団地での生活の長期化によって、様々な問題が生じる可能性がある。住環境の改善と本格住宅の整備は急務とされている。

その一方で、仮設住宅団地の生活によって生まれたコミュニティの継続や、大規模な仮設住宅団地の閉鎖に伴う復興公営住宅建設のための時間を考えると、一部の仮設住宅団地を閉鎖すると同時に、比較的良好で継続使用の可能な仮設住宅団地の住環境の改善や、隣接する新たな用地に復興公営住宅を建設しながら、200～400世帯を単位としたいくつかの「郊外に形成される町外コミュニティ」に統合していく方法がイメージされる。



協働復興のプロセス：「郊外型町外コミュニティ」



協働復興のための始動プロジェクト：「郊外型町外コミュニティ」

# 仮設住宅団地の環境を改善し、隣接地に復興公営住宅などを建設する。

各地の仮設住宅団地は、数年後、住民が復興公営住宅等に移住し始めると閉鎖される。しかし、用地をそのまま使用できれば、建て替えや、近隣の土地に復興公営住宅を建設し、仮設住宅団地で生まれたコミュニティを活かすことが出来る。隣接地を確保できれば、仮移転せずに復興公営住宅に入居することも可能になる。大規模な仮設住宅団地を一斉閉鎖し、必要数の復興公営住宅を一度に供給することは難しい。必要戸数を確保できるまで、断熱や遮音、増築等の住環境改善を図り、本設の戸建住宅と同様に安全で快適な生活環境を整える必要がある。

## Step1

① 新ぐるりんこ広場

仮設住宅団地の生活を支える新ぐるりんこ広場を形成する。

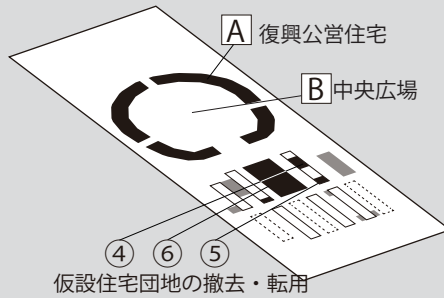
## Step2

② 住居面積の増築・住居の改善

③ 共有空間の増築

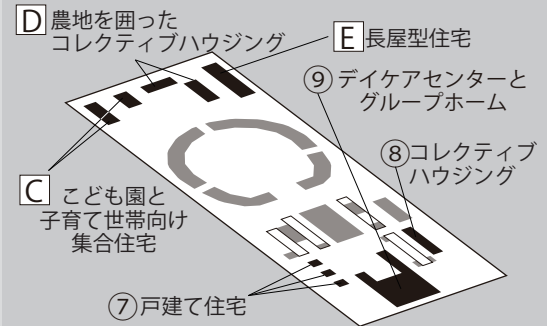
増築による住居面積の確保や、リビングやキッチンなど共有空間の増築による居住環境の改善を行う。

## Step3



復興公営住宅の建設に伴って生じる仮設住宅団地の空き室や、仮設住宅撤去後の空地の転用を行う。

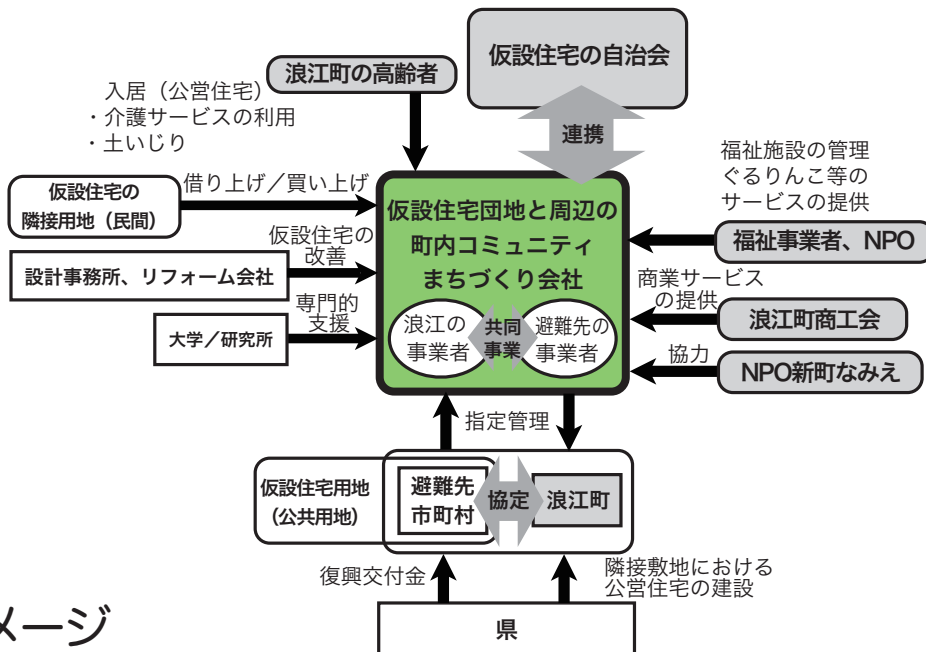
## Step4



家族向けの戸建て住宅やコレクティブハウジング、高齢者や障害を持つ人に向けたグループホームなど多様な住まい方を実現する。

※図中の①～⑨・A～Eは次のページに対応

# 仮設住宅と周辺の町外コミュニティ形成事業



## 事業のイメージ

仮設住宅団地の改善や、その場所や隣接地での復興公営住宅の建設を行うためには、まず、避難先の自治体と浪江町が協定を締結し、避難先の土地を浪江町の土地として利用することが可能となるような前提をつくる必要がある。ここに、仮設住宅団地の自治会やNPOなどのコミュニティが協力し合って、プロジェクトを進めていくことが考えられる。

# 仮設住宅団地と周辺に形成される町外コミュニティのイメージ

復興公営住宅の戸数を確保できるまでの間、どうしても仮設住宅団地に継続して暮らさなければならない時、仮設住宅団地の住環境（断熱や遮音、間取り等）を少しでも改善し、快適に過ごすことができるようにする。また、隣接敷地に余裕がある場合は、集合住宅や戸建て住宅を計画し、コミュニティを保ちながら暮らす。



**C** こども園と  
子育て世帯向け集合住宅

緑豊かな自然に囲まれた芝生の広場で子供達が毎日思いっきり遊べる。

**D** 農地を囲い、みんなで一緒に  
住むコレクティブハウジング

庭先に椅子や机を出し、畑で採れたハーブで出したお茶を飲みながらみんなでくつろぐ。

**①新ぐるりんこ広場**

移動販売車や移動図書館等、様々なサービスが集まり、住民の交流の拠点となる。

**②増築による住戸面積の確保**

ロフト付きの建て増し（木造）で家族みんなで広々と生活できる。

**④⑤⑥仮設住宅団地の撤去・転用**

仮設が撤去された空地には公園が、空き室は転用され広場に面して商店などが作られる。

**⑨デイケアセンターとグループホーム**

高齢者や障害を持つ人も共同菜園で土に親しみながら元気に安心して暮らせる。